

I 調査結果の概要

1 全国主要7都市における国産標準品、高付加価値品、地場産品及び輸入品の価格・販売動向

(1) 販売区分別の販売店舗数

ア 販売区分別(国産標準品、高付加価値品(有機栽培品、特別栽培品)、地場産品及び輸入品。以下同じ。)に販売店舗数割合(1か月当たり平均)をみると、国産標準品については、パプリカ、かぼちゃ、アスパラガス及びブロッコリーは輸入品が多いこと等から、販売店舗数割合はそれぞれ22%、60%、68%、78%となっているものの、他の品目では概ね9割以上の店舗で販売されている。

イ 高付加価値品のうち有機栽培品については、にんじん、たまねぎ及びばれいしょが1割以上の店舗で販売されており、また、特別栽培品についても、トマト、ピーマン、たまねぎなど8品目が1割以上の店舗で販売されている。

ウ 地場産品については、ほうれんそうが1割以上の店舗で販売されているものの、他の品目では販売店舗数割合は総じて低くなっている。

エ 輸入品については、23調査品目のうち半数以上の15品目が店舗で販売されている。特にパプリカは7割、にんにく及びブロッコリーは約6割の店舗で販売されている。

(2) 販売区分別の販売数量

ア 販売区分別に販売数量割合(1店舗、1か月当たり平均)をみると、国産標準品については、品目により大きな差があり、低いもので2割台、高いもので6割台の販売数量割合となっている。

イ 高付加価値品のうち有機栽培品については、割合の高いにんじん及びピーマンでも6%にとどまっているなど、総じて低い割合となっている。また、特別栽培品については、はくさい28%、かぼちゃ27%、ばれいしょ21%、たまねぎ17%となっているなど、有機栽培品に比べ、比較的大きな販売数量割合を占めている。

ウ 地場産品については、品目により差があるものの概ね3割程度の販売割合となっており、国産標準品に次ぐ位置づけとなっている。また、輸入品については、品目によっては大きなウェイトを占めており、パプリカ、にんにくで概ね4割の販売数量割合を占めている。

表 1 販売区分別の販売店舗数・割合（1か月当たり平均）

品目	実数					販売店舗数割合				
	国産標準品	有機栽培品	特別栽培品	地場産品	輸入品	国産標準品	有機栽培品	特別栽培品	地場産品	輸入品
だいこん	113	9	5	6	-	96.3	8.0	4.2	5.3	-
にんじん	112	16	15	3	3	95.8	13.6	12.4	2.5	2.9
ごぼう	106	7	14	4	13	90.6	6.0	12.1	3.0	10.9
はくさい	115	1	4	3	-	97.8	0.9	3.2	2.1	-
キャベツ	115	4	7	3	-	97.8	3.1	6.0	2.8	-
ほうれんそう	105	10	7	17	0	89.3	8.7	6.1	14.3	0.1
ねぎ	115	2	3	6	17	98.0	2.1	2.8	4.7	14.6
アスパラガス	80	-	1	3	62	68.0	-	0.7	2.7	52.6
ブロッコリー	92	1	2	4	70	78.3	0.5	1.3	3.3	59.7
レタス	113	2	8	5	-	96.2	1.6	7.0	3.8	-
きゅうり	114	5	12	6	0	97.2	4.2	9.9	5.3	0.1
かぼちゃ	70	0	5	1	56	59.9	0.2	3.9	0.6	47.7
なす	115	2	6	3	-	98.0	1.7	5.4	2.9	-
トマト	114	6	22	9	-	96.9	5.2	18.7	7.5	-
ミニトマト	113	4	17	4	5	96.2	3.3	14.3	3.3	4.0
ピーマン	113	3	19	3	-	96.6	2.1	16.0	2.3	-
パプリカ	25	0	-	-	87	21.5	0.2	-	-	74.4
ばれいしょ	114	13	15	5	-	96.7	11.2	13.0	4.3	-
さといも	113	2	7	1	4	95.9	1.4	5.8	0.8	3.4
たまねぎ	111	16	17	4	6	94.8	13.6	14.3	3.6	5.4
にんにく	105	2	4	0	75	89.1	1.3	3.6	0.1	63.8
しょうが	102	0	12	0	48	87.3	0.2	10.3	0.2	40.8
生しいたけ	112	-	-	8	43	95.0	-	-	6.7	36.2

単位 { 実数:店舗
割合:%

注1: 実数は、平成15年1年間における月平均の販売店舗数である。

注2: 販売店舗数割合は、調査店舗数に対する有機栽培品、特別栽培品などの各区分別の販売店舗数の割合である。

表 2 販売区分別の販売数量・割合（1店舗、1か月当たり平均）

品目	実数					販売数量割合				
	国産標準品	有機栽培品	特別栽培品	地場産品	輸入品	国産標準品	有機栽培品	特別栽培品	地場産品	輸入品
だいこん	749	46	156	342	-	57.9	3.6	12.1	26.5	-
にんじん	400	60	120	217	157	41.9	6.3	12.6	22.7	16.5
ごぼう	65	10	26	56	35	33.9	5.2	13.5	29.2	18.2
はくさい	480	45	265	174	-	49.8	4.7	27.5	18.0	-
キャベツ	879	43	64	541	-	57.6	2.8	4.2	35.4	-
ほうれんそう	213	9	37	174	111	39.2	1.7	6.8	32.0	20.4
ねぎ	238	16	83	166	108	39.0	2.6	13.6	27.2	17.7
アスパラガス	46	-	9	84	35	26.4	-	5.2	48.3	20.1
ブロッコリー	142	15	61	122	160	28.4	3.0	12.2	24.4	32.0
レタス	367	19	84	257	-	50.5	2.6	11.6	35.4	-
きゅうり	436	12	22	232	-	62.1	1.7	3.1	33.0	-
かぼちゃ	186	6	175	82	196	28.8	0.9	27.1	12.7	30.4
なす	195	8	20	135	-	54.5	2.2	5.6	37.7	-
トマト	376	17	88	282	-	49.3	2.2	11.5	37.0	-
ミニトマト	72	12	25	66	55	31.3	5.2	10.9	28.7	23.9
ピーマン	109	16	51	95	-	40.2	5.9	18.8	35.1	-
パプリカ	25	2	-	-	18	55.6	4.4	-	-	40.0
ばれいしょ	433	41	205	285	-	44.9	4.3	21.3	29.6	-
さといも	82	19	24	152	49	25.2	5.8	7.4	46.6	15.0
たまねぎ	725	90	309	405	259	40.5	5.0	17.3	22.7	14.5
にんにく	13	3	8	10	21	23.6	5.5	14.5	18.2	38.2
しょうが	36	2	21	6	31	37.5	2.1	21.9	6.3	32.3
生しいたけ	55	-	-	45	48	37.2	-	-	30.4	32.4

単位 { 実数:kg
割合:%

注1: 実数は、平成15年1年間における1店舗当たり月平均の販売数量である。

注2: 販売割合とは、1店舗当たりの販売総量に対する各区分別の販売数量の割合である。

(3) 価格動向

販売区分別の価格を主要品目でみると、月別での価格差の大小はあるものの有機栽培品、特別栽培品は国産標準品の価格を上回って推移している。一方、輸入品は国産標準品の価格を下回って推移している。

販売区分別、品目別の価格比は以下のとおりである。

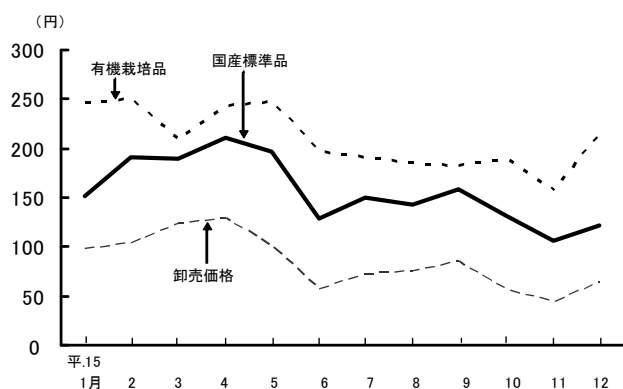
ア 有機栽培品の価格を国産標準品と比較してみると、年平均では、にんじん72%、ごぼう60%、ばれいしょ47%、ほうれんそう45%、だいこん35%とそれぞれ国産標準品を上回っている。

イ また、特別栽培品は、年平均で、にんじん27%、ミニトマト24%、ごぼう20%、ばれいしょ12%それぞれ国産標準品を上回っている。

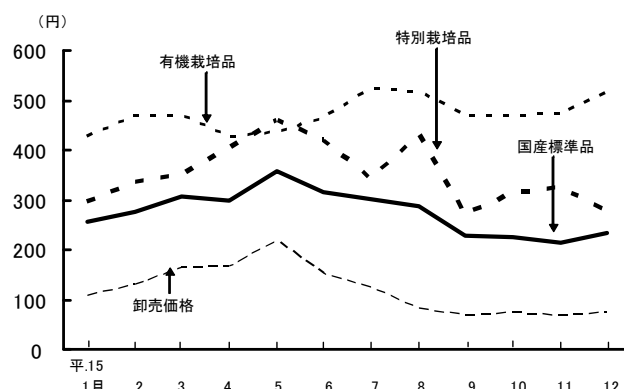
ウ 一方、輸入品は、年平均で、ごぼう61%、ミニトマト37%それぞれ国産標準品を下回っている。

図1 国産標準品と高付加価値品及び輸入品の価格推移

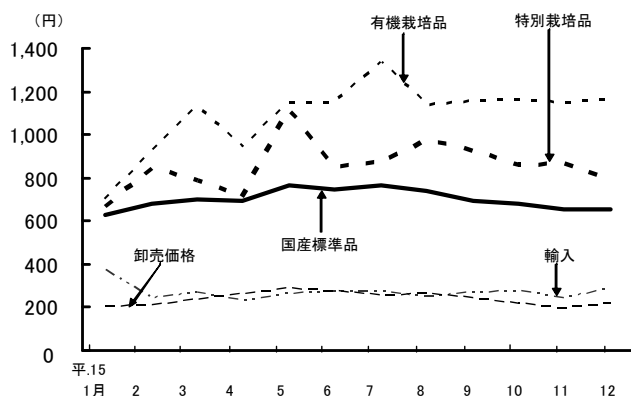
だいこん



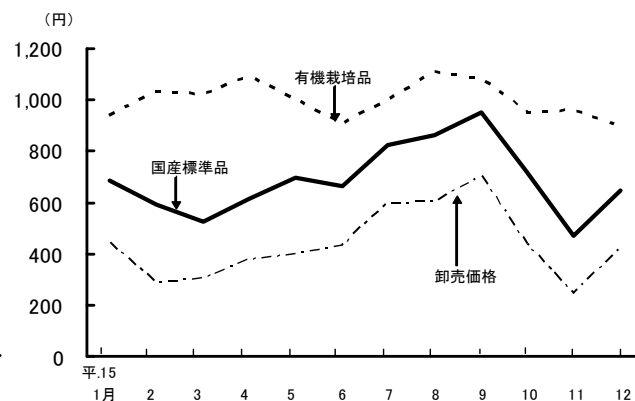
にんじん



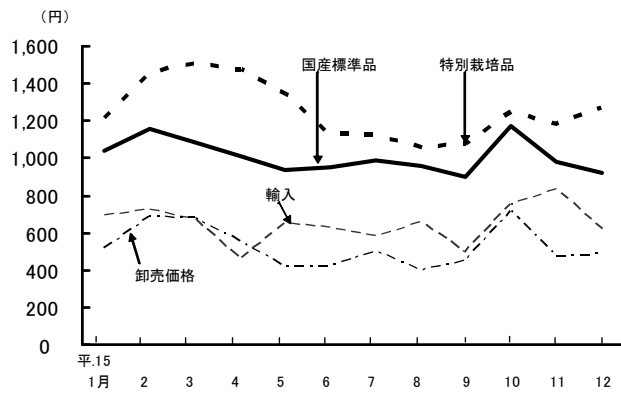
ごぼう



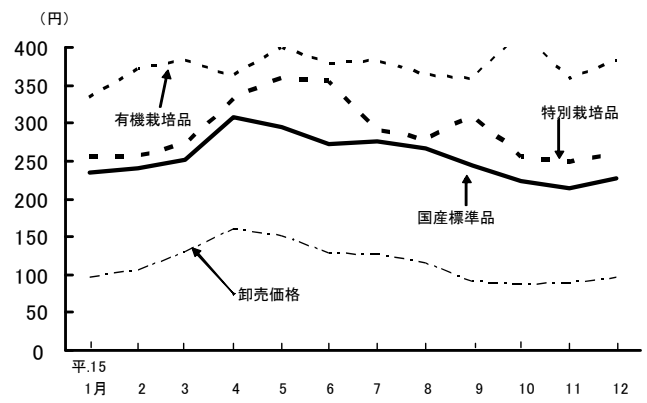
ほうれんそう



ミニトマト



ばれいしょ



注：卸売価格は、1・2類都市市場における月平均卸売価格である。

2 並列販売店舗における国産標準品、高付加価値品、地場産品及び輸入品の価格・販売動向

（ 並列販売店舗とは、同じ品目について、国産標準品と高付加価値品（有機栽培品、特別栽培品）、地場産品又は輸入品のいずれかを同時に販売している店舗をいう。 ）

(1) 販売区分別の並列販売店舗数

- ア 販売区分別に並列販売店舗数割合（1か月当たり平均）をみると、国産標準品と有機栽培品では、たまねぎ、にんじん、ばれいしょが約1割の店舗で並列販売しているが、他の品目は総じて低い割合となっている。
- イ 国産標準品と特別栽培品では、トマト18%、ピーマン14%、たまねぎ13%など各品目で比較的高い割合で並列販売が行われている。
- ウ 国産標準品と地場産品では、各品目とも総じて低い割合となっている。また、輸入品では、輸入量の多いにんにく、ブロッコリー、生しいたけ、しょうがが高い割合で並列販売されている。

(2) 販売区分別の販売数量

- ア 国産標準品と有機栽培品を並列販売している店舗について、有機栽培品の販売数量割合（1店舗、1か月当たり平均）をみると、にんにくで17%、さといもで16%であった。
- イ 同様に特別栽培品の販売数量割合は、しょうが、ばれいしょ、にんにくで3割以上と高かった。
- ウ 一方、輸入品については、かぼちゃ、ブロッコリー、にんにくなどが多く、いずれも6割を越える数量を販売している。

表3 販売区別の並列販売店舗数・割合（1か月当たり平均）

品目	実数				並列販売店舗数割合			
	有機栽培品	特別栽培品	地場産品	輸入品	有機栽培品	特別栽培品	地場産品	輸入品
だいこん	8	4	4	-	7.2	3.6	3.1	-
にんじん	13	13	2	3	11.4	11.1	1.3	2.8
ごぼう	6	10	1	10	5.3	8.7	0.6	8.5
はくさい	1	4	1	-	0.9	3.0	0.6	-
キャベツ	4	7	1	-	3.1	5.6	1.0	-
ほうれんそう	8	6	6	-	6.7	4.8	5.3	-
ねぎ	2	3	3	17	1.8	2.6	2.8	14.3
アスパラガス	-	1	1	28	-	0.6	0.5	24.1
ブロッコリー	1	1	1	48	0.5	0.9	0.7	41.1
レタス	2	7	2	-	1.4	6.2	1.7	-
きゅうり	5	11	4	-	3.8	9.4	3.1	-
かぼちゃ	0	3	0	11	0.2	2.2	0.0	9.7
なす	2	6	2	-	1.7	5.2	1.6	-
トマト	5	22	6	-	4.6	18.4	5.1	-
ミニトマト	4	15	2	4	3.3	13.1	1.3	3.7
ピーマン	3	17	2	-	2.1	14.1	1.3	-
パプリカ	-	-	-	1	-	-	-	1.2
ばれいしょ	12	15	2	-	10.3	12.5	2.1	-
さといも	2	6	1	3	1.3	4.9	0.7	2.8
たまねぎ	14	16	2	6	11.5	13.4	1.6	4.8
にんにく	1	2	-	65	1.2	2.0	-	55.0
しょうが	-	6	-	37	-	5.0	-	31.3
生しいたけ	-	-	4	41	-	-	3.3	35.3

注1: 実数は、平成15年1年間における月平均の並列販売店舗数である。

2: 並列販売店舗数割合は、調査店舗数に対する有機栽培品、特別栽培品などの各区別の並列販売店舗数の割合である。

表4 販売区別の並列販売店舗における販売数量の割合（1店舗、1か月当たり平均）

品目	実数(月平均)				国産標準品との販売数量割合			
	有機栽培品	特別栽培品	地場産品	輸入品	有機栽培品	特別栽培品	地場産品	輸入品
だいこん	36	126	188	-	3.3	14.4	13.5	-
にんじん	38	82	154	154	8.0	18.2	15.6	39.6
ごぼう	8	19	29	26	12.1	26.8	9.5	43.3
はくさい	45	203	75	-	4.8	20.8	4.3	-
キャベツ	44	41	100	-	4.5	4.3	5.2	-
ほうれんそう	10	17	75	-	3.5	9.7	20.8	-
ねぎ	15	78	118	108	3.5	24.6	27.7	39.3
アスパラガス	-	7	56	37	-	12.3	73.7	54.4
ブロッコリー	15	31	64	173	4.5	8.4	34.0	64.1
レタス	19	69	126	-	3.6	19.6	23.3	-
きゅうり	12	22	159	-	1.9	5.8	11.2	-
かぼちゃ	6	44	-	205	3.6	18.1	-	67.9
なす	8	18	147	-	2.9	7.5	25.5	-
トマト	17	86	185	-	3.3	16.3	33.4	-
ミニトマト	12	22	48	39	9.6	18.8	25.1	48.1
ピーマン	16	22	59	-	11.3	14.0	23.7	-
パプリカ	-	-	-	13	-	-	-	46.4
ばれいしょ	31	205	158	-	7.3	32.8	19.2	-
さといも	21	26	166	45	15.8	19.0	45.9	50.0
たまねぎ	54	279	201	226	7.1	26.6	18.2	23.2
にんにく	3	8	-	19	16.7	32.0	-	63.3
しょうが	-	15	-	29	-	34.1	-	49.2
生しいたけ	-	-	30	48	-	-	25.2	55.8

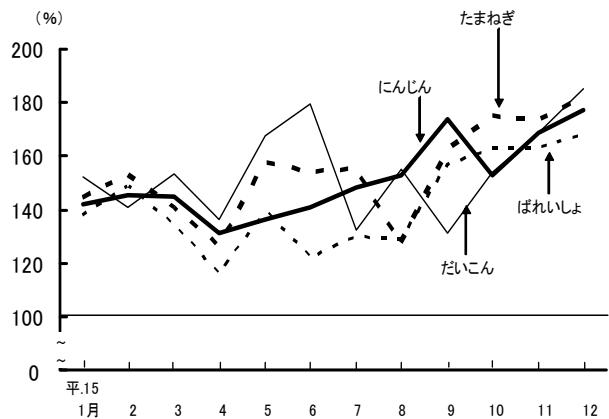
注: 並列販売店舗における1店舗当たりの月平均の販売数量である。また、割合は並列販売店舗における国産標準品に対する販売割合である。

例) 有機栽培品の販売割合 = 有機栽培品の販売数量 / (国産標準品の販売数量 + 有機栽培品の販売数量) × 100

(3) 並列販売店舗における価格動向

ア 並列販売店舗における販売区分別の価格について、有機栽培品の国産標準品との価格比をみると、月々には変動がみられるものの、各品目の年平均価格は、だいこんが54%、たまねぎが52%、にんじんが50%、ばれいしょが41%、それぞれ国産標準品を上回っている。

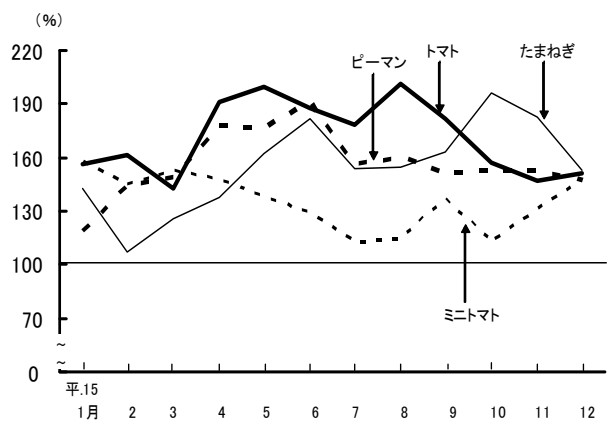
図2 有機栽培品の国産標準品との価格比



注：比率(%)は標準品の価格を100としたものである(以下同じ。)

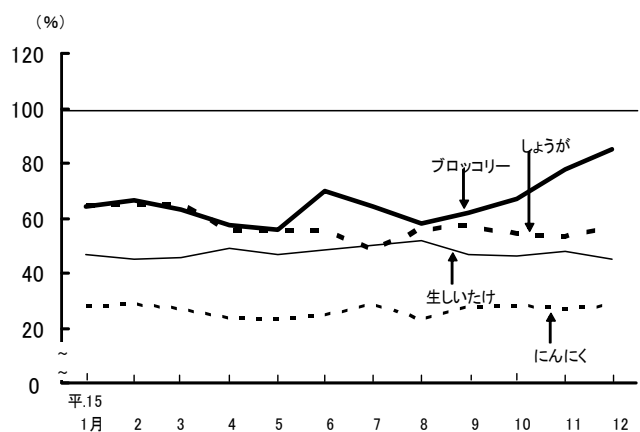
イ 特別栽培品は国産標準品の価格を、トマトが72%、ピーマンが57%、たまねぎが50%、ミニトマトが33%、それぞれ国産品を上回っている。

図3 特別栽培品の国産標準品との価格比



ウ 輸入品は国産標準品の価格を、ブロッコリーが36%、しょうがが43%、生しいたげが53%、にんにくが74%、それぞれ下回っている。

図4 輸入品の国産標準品との価格比

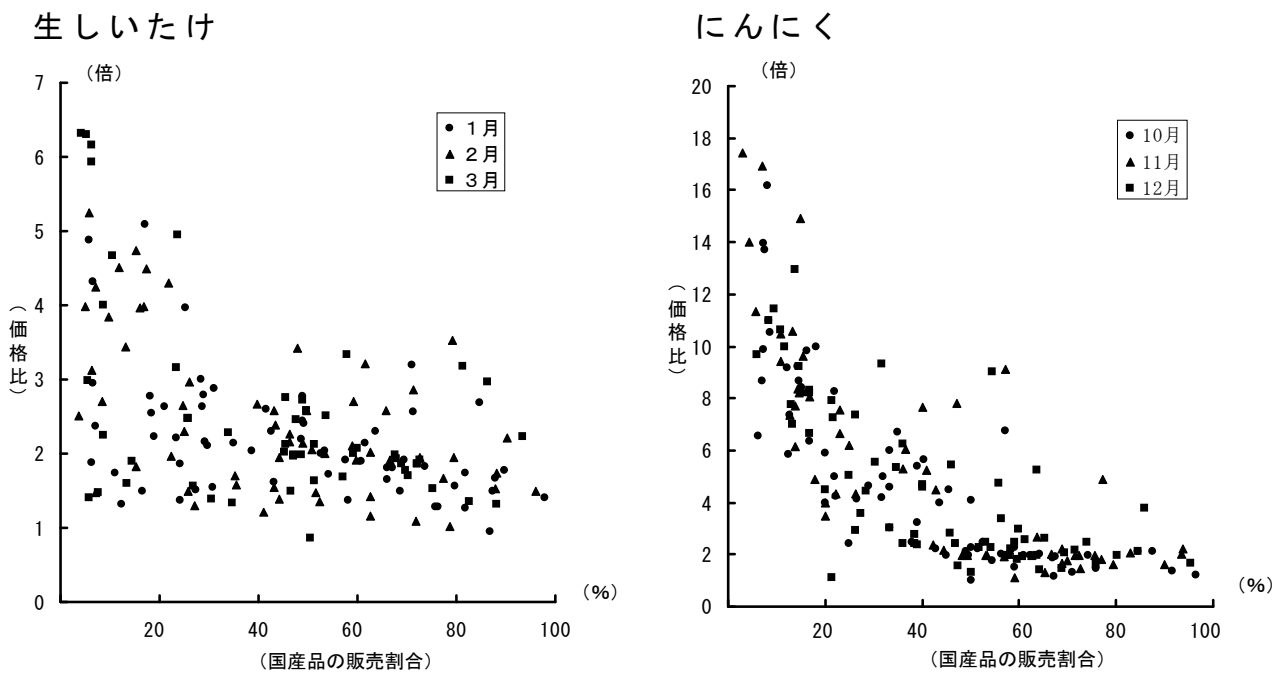


(参考1) 国産標準品と輸入品の価格比と国産標準品の販売数量割合

国産標準品と輸入品を同時に販売している並列販売店舗において、輸入品の販売が多かった品目について、国産標準品と輸入品の価格比と国産標準品の販売数量割合の分布をみると以下のとおりであった。

中国などから年間を通じて多く輸入され、その価格・数量ともほぼ安定している生しいたけ、にんにくは、2倍程度の価格比での販売が中心であるが、国産品の販売数量割合が30%未満である場合には国産品の価格比が高く設定されている店舗もみられる。

図5 輸入品に対する国産標準品の価格比別国産標準品販売数量割合別店舗数



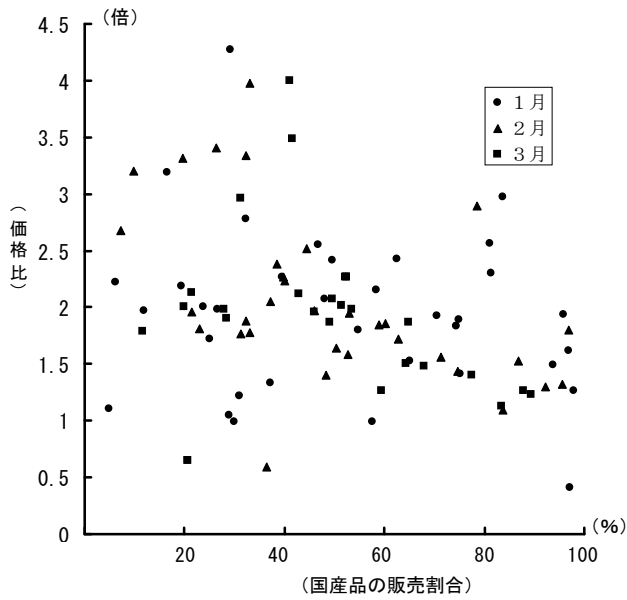
注：価格比＝国産品価格／輸入品価格

国産品の販売割合＝国産品販売数量 / (国産品販売数量＋輸入品販売数量) × 100

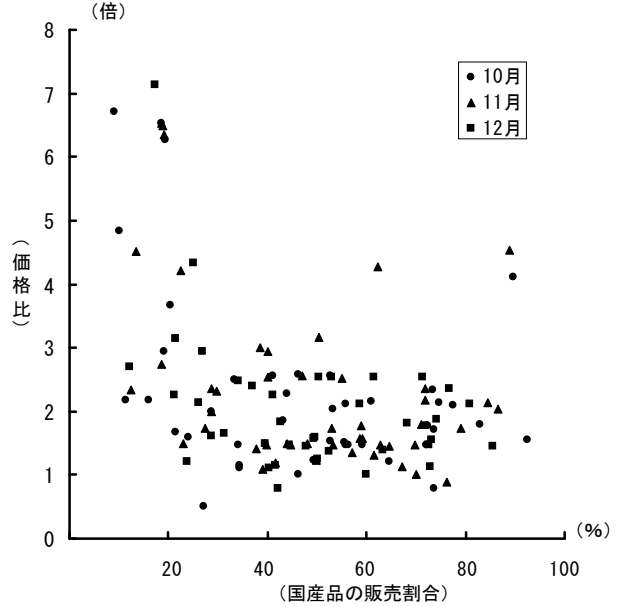
各品目とも、並列販売店舗数の多かった月を含む3ヶ月分のデータである(以下この表において同じ)。

国産品との競合関係にあるねぎ、しょうが、また、国産品との品質較差が比較的小さいアスパラガス、ブロッコリーでは、販売数量割合と価格比との間に関係はみられない。

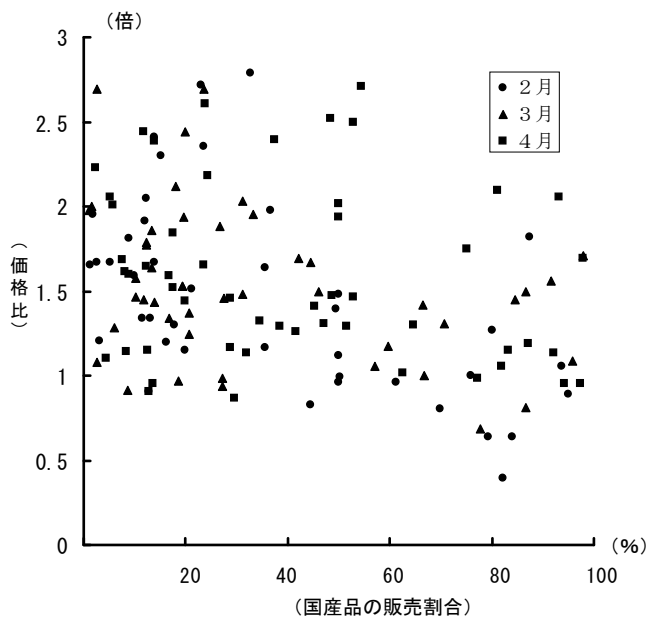
ねぎ



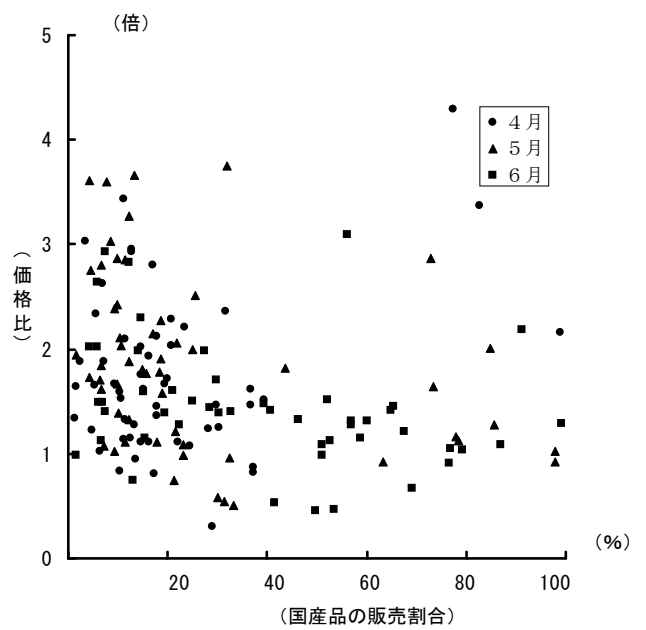
しょうが



アスパラガス



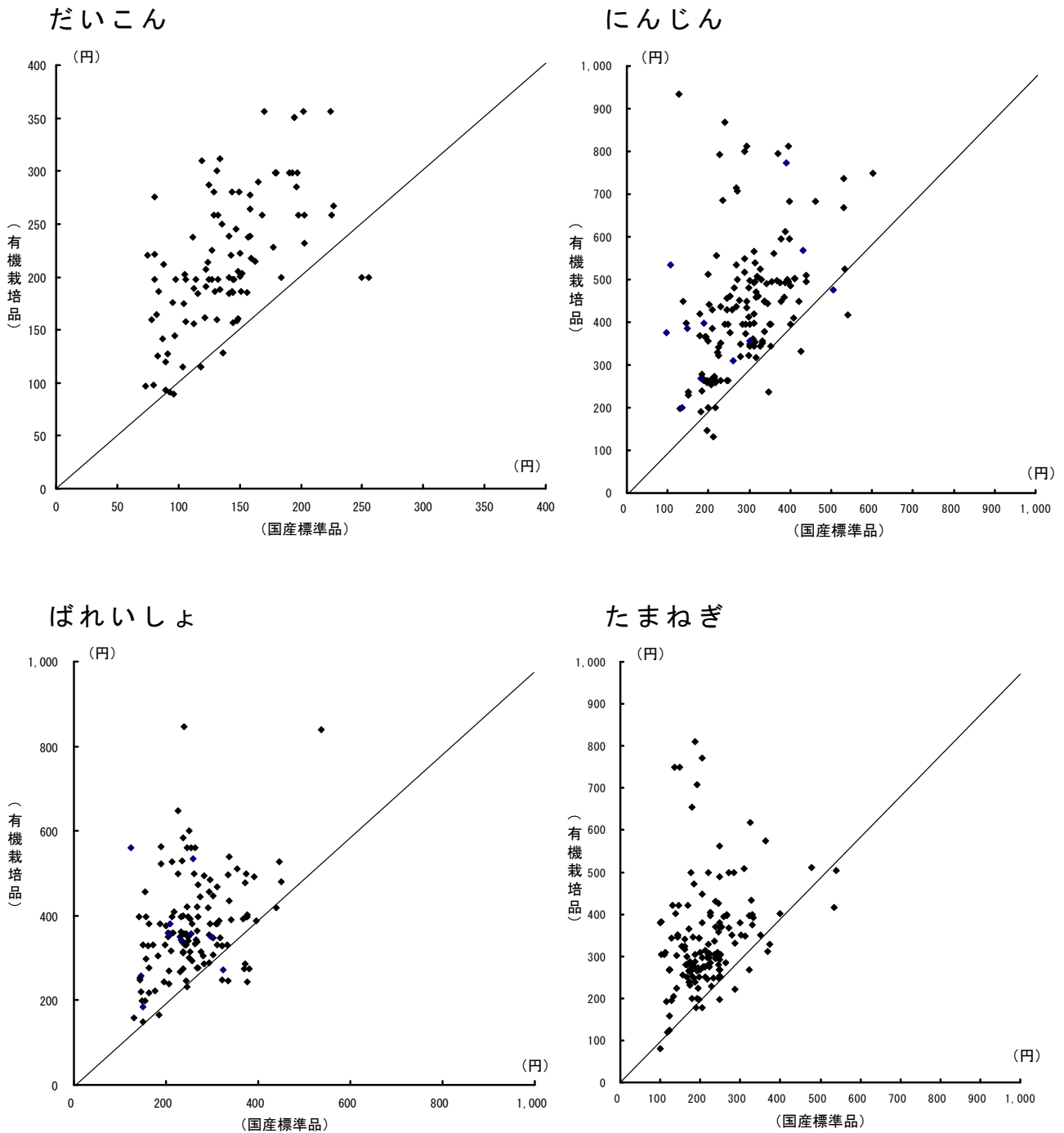
ブロッコリー



(参考2) 国産標準品と有機栽培品を並列販売している店舗における価格設定の相関

国産標準品と、有機栽培品の両者を並列販売している店舗において、それぞれの販売価格との相関をみると、ほとんどの店舗において有機栽培品の価格が国産標準品の価格を上回っている。

図6 国産標準品と有機栽培品との販売価格の相関



(参考3) 国産標準品と輸入品を並列販売している店舗における価格設定の相関

国産標準品と輸入品の両者を並列販売している店舗において、それぞれの販売価格との相関をみると、ほとんどの店舗において輸入品の価格は国産標準品の価格を下回っている。

図7 国産標準品と輸入品との販売価格の相関

